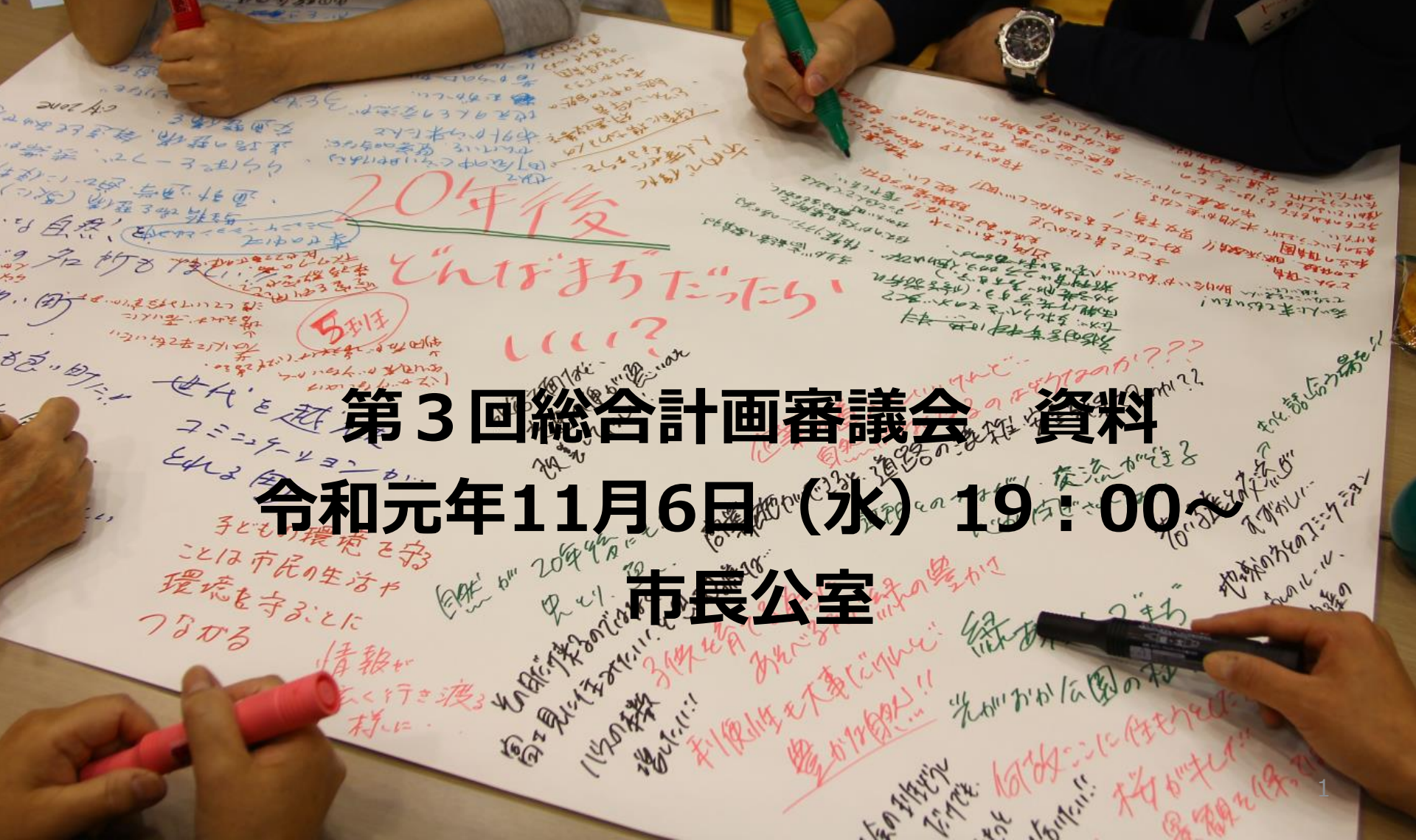


総合計画について



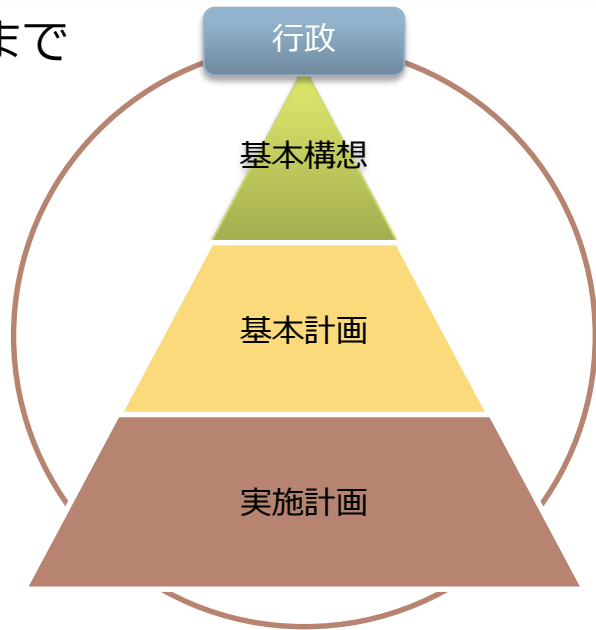
第3回総合計画審議会 資料

令和元年11月6日(水) 19:00~

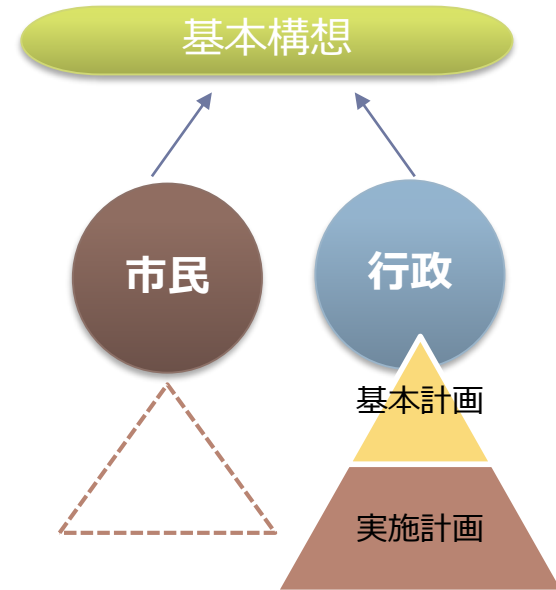
市長公室

次期総合計画の全体像

これまで



これから



今後の縮小社会・人口減少などにおいて、まちづくり（地域経営）を行政のみで行うことは困難を伴う。そのため、市民と行政がまちづくりを進めるための共通理念を設定し、5次総合計画時以上に、同じ目的をもって進んでいくことでまちの発展への推進力を確保することが必要と判断した。

【第6次基本構想の策定ポイント】

① 地域全体の共通理念として策定

・市民の方が求める、理想の“未来”を設定します。この理想の“未来”を、行政のみならず市民を含め、地域全体の共通理念として設定します。

② 未来志向での策定

・20年後をイメージすることで、次世代へのバトンタッチを意識し、現状の制約に縛られず自由な未来を想像し、策定します。

③ 白紙の状態から策定

・市民ワークショップなどを通じ白紙の状態から、市民とともに基本構想を策定しました。

総合計画の視点

どちらかといえば**基本構想**寄りの考え方

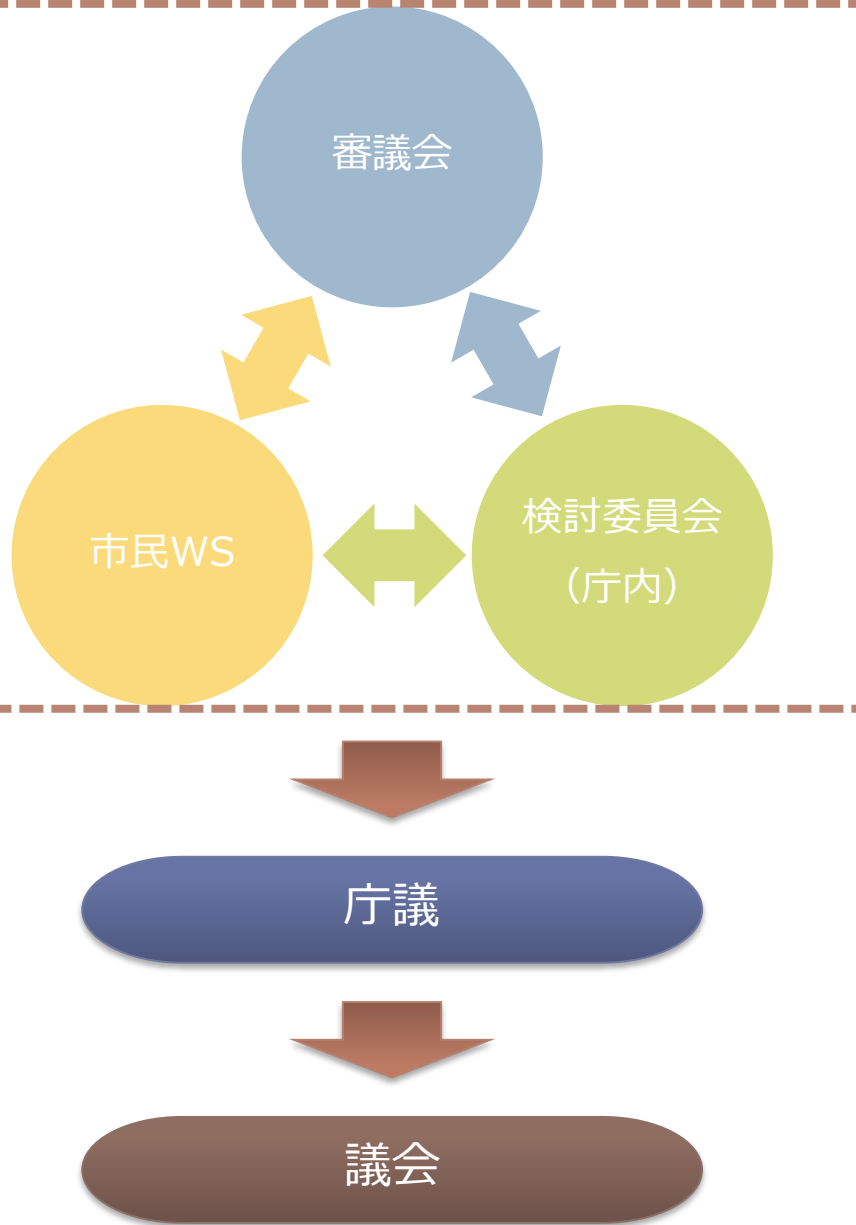
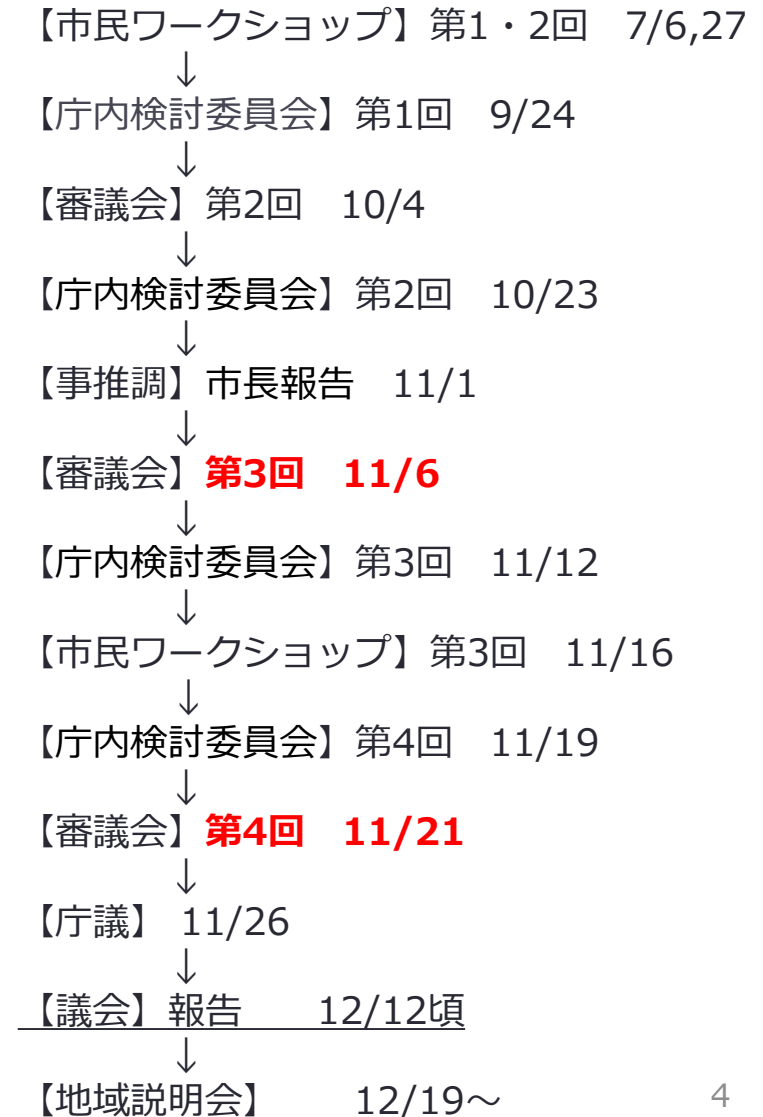
未来

現在

どちらかといえば**基本計画**寄りの考え方

次期総合計画の策定概要

基本構想案の策定の流れ



前回骨子案に対する意見等

【前回骨子案に対する主な意見】

①市民ワークショップメンバー

- ・もっと富士見市らしさを求めないのか。
- ・“誰もが住みやすいまち”など端的なもの または 考えさせる表現のほうが良いのではないか。
- ・「帰ってきたいまち」 転勤などしても戻って来たいくなるようなまちを目指しても良いのではないか。

②庁内検討委員会

- ・抽象的な表現となり、人によってとらえ方が変わるのではないか。
- ・富士見市らしさをより明確にしたほうが良いのではないか。
- ・外国人が増える中、多様性や多文化などはより重要となってくる。

③審議会

- ・富士見市だからできることを強調してもよいのではないか。
- ・若い人の観点が不足している。
- ・ベッドタウンも魅力の1つとして捉え、「帰って来たいくなるまち」のようなものでも良いのではないか。

④新規採用職員研修

- ・子どもの観点を入れることも必要なのではないか。
- ・自然と住まいの共存のみならず、自然と産業の共存などもあるのではないか。
- ・“発展”という視点をもっと前面に出すべきではないか。

【修正の方向性】

①“ひと”的要素のみならず、“まち”的な要素も加える

⇒ “ひと”の求める未来のみならず、“まち”としての未来の観点も加える。

②発展・持続可能性などの要素を加える

⇒ 経済的な潤いやまちの潜在能力の活用などの要素を加える。

③富士見市らしさをできる限り出す

⇒ 富士見市全体（暮らし・つながり・生活環境＋発展）としてトータルバランスの良さを強みと整理。

④わかりやすく・伝わりやすいように表現する

⇒ イメージを例示し、伝わりやすいように工夫、表現もできる限り柔らかい表現で行う。